

## 1（3）他分野との連携・融合による活動

## 古文書講座

令和元年12月15日、22日

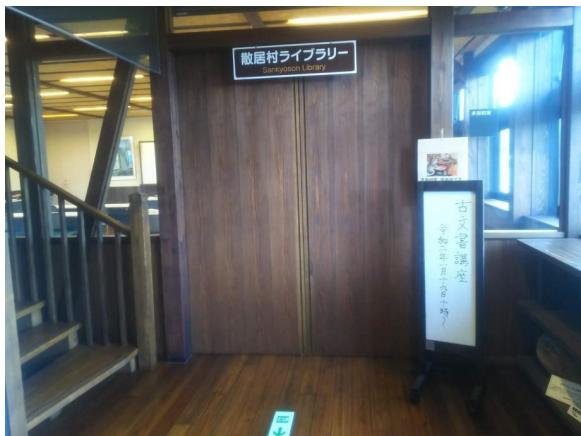
令和2年1月12日、19日の計4回

於：となみ散居村ミュージアム民具館

## ○古文書講座写真



古文書を声に出して読みながら、古文書独特の文字の「くずし」を見ていく。同時に文面の内容も学習していく。



計4回の古文書講座のうち、前半2回は砺波地方の村方文書、後半2回は町方文書を教材として取り上げた。砺波平野は加賀100万石の内の25万石を産出した単作水稻農業地帯であり、「砺波の生活・生産用具」が使われた背景となる砺波平野の暮らしぶりを、村方・町方文書を読み解く中で学習した。

## ○受講者の感想

- ・同じ文字でもいろいろな形に省略されることがわかった。
- ・決まりがあるらしいので、ゲーム感覚でまず解いてみるのも良いのかもしれない。
- ・当時の町や村の生活が、車も無いし、限られた範囲で行われていたことがわかった。砺波と高岡でも暮らしぶりが全く違っていて、藩が異なれば、全く外国みたいだったのは驚き。
- ・また、このような講座があるならば、声を掛けてほしい。
- ・結構、古文書を読む事は難しいことが分かった。
- など。

## ○主催者側の感想

- ・古文書を自力で少しでも読もうという、純粋な古文書講座として開催してみたが、中には古文書の内容を語る会と思っておられる方もおられた。目標をしっかりと伝えてあげることが必要。
- ・熱心に他地区の古文書講座に通っておられる方がおられることがわかった。
- ・回を重ねるうちに、受講者の学習の差が出てくることが判明した。受講者が多くなれば、班を分け、複数の人で見る事も検討する。古文書の決まりをまず、1回目に行うことが必要。楽しく学習するには、合間にコラムとして、地域の歴史を挟むなど、授業の工夫が必要。